



## 令和元年度 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催 ～地域の森林・林業における課題等について意見交換～



森林・林業に係る地域の課題等について意見交換を行った協議会の模様

11月21日に熊本市内において、「令和元年度 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催しました。  
この協議会は、地域と国有林野事業の連携強化を図り、地域の発展と国有林野事業の円滑な遂行を図るため、国有林が所在する地域の市町村長（代表世話人）及び九州森林管理局長、代表森林管理署長等で構成される協議会であり、毎年開催しているものです。

会議冒頭では、原田隆行九州森林管理局長から、「市町村が森林管理システムを運営していくにあたり、森林管理局として各地域にある国有林の管理経営を通じて、民有林行政への支援を行っていききたい。九州は全国にさがけて伐採が進んでいるが、伐採後の再造林を確実に進めていくことが課題となっている。国有林では、低コスト造林技術の確立に向け取り組んでいるところ。あと数年で結果が出てくると思われるので、様々な取組を通じて民有林へ普及できればと考えている。これから各地域の課題について意見交換し、国有林の管理経営の参考とさせていただきます。ただ、忌憚のないご意見をいただきたい」との挨拶がありました。また、林野庁から出席した鳥海管理課長及び齋藤木材製品技術室長より林野庁の主要な取組や令和2年度予算概算要求の概要等について説明が行われました。  
その後、ご出席いただいた市町村長より、各県単位で開催された有志協議会のご報告や、各市町村での森林・林業に係る取組についてのご紹介をいただきました。市町村長からは、森林環境譲与税の活用方法、シカ・イノシシなどの鳥獣被害対策の



挨拶をする原田局長

最後に原田局長より、「各市町村からのご意見を整理し、地域が抱える課題にしっかりと対応していきたい。今後、森林整備や再造林を進めて行くにあたり、予算確保に向けて引き続きご協力をお願いしたい。」との発言があり、盛会の中で終了しました。  
九州森林管理局では、いただいたご意見やご要望を踏まえ、関係市町村との連携を深め、地域の森林・林業・木材産業の活性化に向けて取り組んでいく考えです。

(担当)企画調整課

# 森林・林業の技術交流発表大会を開催

令和元年10月29日、30日の両日、くまもと県民交流館パレアで「令和元年度森林・林業の技術交流発表大会」を開催しました。  
九州、沖縄各県の森林・林業関係者、森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など両日で約260人が参加しました。  
発表は、ICTを活用した林業技術の開発や改良、シカ被害からの森林保全、NPO法人と協働による活動など33課題がありました。

この発表大会は、九州林政連絡協議会が主催し、産学官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換を行うことにより、森林・林業の活性化を図ることを目的に開催しているもので、今回で25回目となります。

1日目は、同協議会を代表し当局林視次長（業務管理官）より、発表大会の歴史を紹介の後、「今年度の発表は、佐賀県・熊本県・鹿児島県の高校生6課題を含む33課題で、九州の林業成長産業化に向けた課題を含む多岐なテーマにわたっており、発表への取組に敬意を表すると共に、今発表大会を契機に皆様の親交が更に深まり今後の九州の森林・林業の産業発展に有意義な大会となることを祈念する」と挨拶。

その後、「森林技術部門」と「森林保全部門・森林ふれあい部門」の2会場に分かれ、一般の部27課題の発表を行いました。

2日目は、九州森林管理局と連携協定を結んでいる5大学のうち九州大学、鹿

児島大学、琉球大学による特別発表と高校生の部6課題（佐賀県1校、熊本県4校、鹿児島県1校）の発表を2会場に分かれて行いました。

## 【特別発表課題】

▽「侵入種と目的樹種が混交した常緑広葉樹人工林の林分構造とサイズ構成から密度管理を考える」  
（琉球大学 谷口真吾教授）

▽「サザンカにおける輪紋葉枯病の発生傾向」  
（鹿児島大学 畑邦彦准教授）

▽「インドネシアにおける森林管理の課題と政策動向」  
（九州大学大学院 藤原敬大准教授）

最後に審査委員長の（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所九州支所長陣川雅樹所長より発表課題毎に講評と一般の部の九州林政連絡協議会会長賞（最優秀賞2課題、優秀賞6課題）及び高校生の部の九州森林管理局長賞（最優秀賞1校、優秀賞2校）の発表がありました。

受賞者へ表彰状を授与し、2日間に渡る発表大会を終了しました。

## （担当）技術普及課

**33課題の中から評価の高かった一般の部8課題・高校生の部3課題を表彰**

令和元年度森林・林業の技術交流発表大会において、受賞された課題と発表者は次のとおりです。

## 【一般の部】

九州林政連絡協議会会長賞  
最優秀賞（2課題）

◇九州北部豪雨災害からの復旧に向けた林業普及活動について  
〜林業研究グループを通じて森林作業道復旧の取組み〜  
福岡県 朝倉農林事務所  
津田 城栄



福岡県朝倉農林事務所

◇シカ食害に対する苗木・下刈手法の検討について  
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター  
九州整備局

濱田 峻資  
水谷 敏己



森林整備センター九州整備局

## 優秀賞（6課題）

◇3Dレーザースキャナを用いた森林現況調査による収穫表現直し  
大分県 中部振興局  
松本 純



大分県中部振興局

◇将来の西臼杵の子ども達に豊かな森林資源を引き継ぐために  
宮崎県 西臼杵支庁  
林 龍典



宮崎県西臼杵支庁

◇下刊の低コスト化、労働力軽減等への取り組み状況について（次世代造林プロジェクト経過報告）  
森林技術・支援センター  
釜 稔  
永井 純一



森林技術・支援センター

◇熊毛流域における林業担い手確保・育成について  
鹿児島県 熊毛支庁  
浜屋 久志  
伊地知 秀太



鹿児島県熊毛支庁

◇紫尾山におけるブナ林の保全対策について（第3報）  
北薩森林管理署  
田畑 駿也  
緒方 琴音



北薩森林管理署

◇「猪八重溪谷」のブラッシュアップによる地域創生  
NPO 法人と協働による取り組み  
宮崎南部森林管理署  
郷原 寛美  
古川 拓也  
谷口 由利子



宮崎南部森林管理署  
NPO法人 ごんはる

【高校生の部】  
九州森林管理局長賞  
最優秀賞（1課題）

◇永遠に続け！虹ノ松原  
有効資源の活用で地域の遺産を守る  
佐賀県立唐津南高等学校

- 桑野 あみ
- 吉村 隆平
- 堤 玲姫
- 古川 智保
- 平田 純成



唐津南高校のみなさん

優秀賞（2課題）

◇森と人をつなぐ森育活動の実践  
森を楽しみ・森に学び・森で癒される  
熊本県立芦北高等学校  
浅田 実穂  
集 志音  
宮島 利華  
横濱 みなみ  
田村 大地

◇球磨モンの水土林Project★  
人吉・球磨発！水と郷土と緑を育む故郷環境保全活動  
熊本県立南陵高等学校  
早田 京介  
池田 麻里愛  
安慶名 健五  
黒肥地 昂志  
星原 汐苑  
山口 薫翔

- 山口 薫翔



芦北高校のみなさん



南陵高校のみなさん

【大分西部森林管理署】10月28・29の両日、昨年に続き、大分県立日田林工高校林業科2年生2名が、インターシップとして当署で国有林の業務を体験しました。

## 日田林工生が インターン体験

進路に公務員を希望している2名のインターンシップ生は、28日朝に来署し、署長から国有林の業務の概要等の説明を聞いた後、入庁2～5年目の当署若手職員と意見交換を行い、職員から、取り組んでいる仕事の内容や、採用試験に向けての準備や心構え等を聞き取っていました。職員も苦心しながら、自らの経験や思うことについて、簡潔かつわかりやすい説明に努めていました。

その後、治山グループの指導の下、治山事業や保安林制度について講義を受けた後、署を出発して工事箇所状況調査に同行し、九重町内のくじゅう山系の治山ダム群と保全対象を望みながら、治山事業の内容や効果等の説明を受けました。



若手職員との意見交換会の様子



間伐作業現場の見学の様子

翌29日には、業務グループの指導の下、中津市山国町内の間伐の作業現場と林道新設工事箇所をそれぞれ訪ね、丸太の集造材や地山の掘削、構造物の設置作業等を見学しました。

2名の生徒は、挨拶や言葉遣いも丁寧で、2日間のインターンシップに熱心に取り組んでいました。感想を尋ねると「職員の方からのアドバイスを伺って、今日から早速しっかり勉強していきたい」、「治山の現場では『山のお医者さん』という説明があり、わかりやすかった」とのことでした。是非引き続き公務員を希望していただき、将来ともに働けることを楽しみにしています。

## 「秋の一日遠足」で 森林教室を開催

【屋久島森林管理署】当署では、安房小学校からの要請を受け、10月25日に安房貯木土場において5年生37人の児童を対象に、森林教室を開催しました。

はじめに山口聖技官が今日の実施内容と貯木場の説明、本立ての作り方の説明を行い、その後ブルーシートを敷き本立て作りを始めました。児童達はマイ金槌で友達と協力しながら本立てを作り、できた本立てに絵や名前を書いて自分だけの本立てを完成させました。つづいて、山口強技官がヤクスギ土埋木の説明を行い、実際に児童達にヤ



土埋木の説明を聞く児童たち

クスギ土埋木の香りを嗅がせたり、また児童達もヤクスギ土埋木の大きさや値段に驚きを隠せない様子でした。さらに、井誠喜森林官によるドローンの実演を行ったところ、児童達は飛び回るドローンに手を振ったり追いかけたりと大はしゃぎしていました。最後にドローンで写真撮影をし、森林教室は無事終了しました。児童達から「貴重な体験ができた」「忘れられない1日になりました」等の感想があり、先生方からも素晴らしい講義をしてもらったとお礼を頂きました。

当署としては、引き続き小学校などからの要請に応じ森林環境教育を実施し、次世代を担う子供達に対して森林や木材を使うことの大切さを伝えていく考えです。

## 年長園児を対象に 森林教室を開催

【熊本南部森林管理署】11月19日多良木町の社会福祉法人「むつみ保育園」の依頼を受け、年長園児20人を対象に当署職員による森林教室を行いました。冒頭、副園長より、「毎年森林教室をしていただきありがとうございます。園児たちも自然



「しおり」を作る園児たち

とふれあうことを楽しみにしています」とのあいさつの後、午前中は多良木町を眺望できる妙見野自然の森展望公園で、紅葉狩りやどんぐり拾いを行い、町を一望できる公園に園児たちはとても大喜びでした。

午後からは、多良木町のえびす広場において、モミジなど色づいた葉っぱを使った「しおり」の作成や曲用紙にいろいろな葉っぱをつけた作品を作りました。その後、拾ったドングリでコマまわしの体験や紙芝居などを行いました。園児の作品はどれも独創性があり、素晴らしい出来映えとなり作製した作品を大切に持ち帰っていました。

当日は晴天にも恵まれ、自然のなかで遊ぶことにより、木や水等の自然の大切さを学ぶ楽しい一日となりました。

## 大分県農林水産祭 農林部門へ参画

【大分森林管理署】10月26日・27日の2日間、別府市の別府公園において、大分県農林水産祭実行委員会・大分合同新聞社主催により、大分県農林水産祭【農林部門】「おおいたのみのフェスタ」が開催されました。

大分森林管理署からは、「国有林コーナー」を設けて、森林・林業・木材産業の役割や取り組み状況、木の温もりにふれていただきました。



モックン作りの様子

大分県農林水産祭は、行政、林業関係団体など多くの出典と県内外から多くの方が訪れます。

当署からも、山部秀巳地域林政調整官が実行委員会の幹事として構成メンバーに入り、会場の配置、注意事項など検討段階から参加して準備を進めてきました。

開会式では、主催者を代表して実行委員長の広瀬大分県知事から「生産者が丹精込めて作った農産物をたくさん味わってください。また、林業では、木工品の展示、ドローンの体験コーナーなど準備していただいています。畜産では大分和牛など盛りだくさん準備していただいています。そして美味しいと言っていた多くと生産者の方の活力になります。そして、この機会に農林業に関心を深めていただくとともに農林水産祭を楽しんでください」と挨拶がありました。

大分森林管理署の「国有林コーナー」では、丸太切りやモックン作りの体験コーナーを準備して、木の特徴の紹介や木の温もりにふれていただきました。丸太切りでは、慣れない体験とお父さんに手伝ってもらいながら奮闘、またモックン作りでは、親子で作る楽しさを体験していただき、「出来たっ！」とお母さんに自慢する光景が印象的でした。

また、森林施業、森林環境教育やCLTなどのパネル展示も行い

森林・林業への関心を深めていただくとともに、国土を保全する役割を担っている国有林治山事業についても関心を寄せていただきました。今後も様々な機会を通じて、当署の取り組みをPRして参ります。

## 西都ふるさと 産業祭りに参加

【西都児湯森林管理署】10月27日、西都市の西都原古墳群イベント広場にて、西都市の農林産物や地場特産、加工品など特産品を市内外にPRする目的として「第14回西都ふるさと産業まつり2019 “こんね祭り”」が開催され、当署も参加しました。

当日は天候にも恵まれ、イベント会場は様々なブースが並び、概ね3万人程度の来場者が訪



本棚作りに奮闘する親子

れました。当署からは国有林材のヒノキを使った本棚を作る木工教室を行いました。

ブースには子供同士や親子連れ、年配の方など幅広い年齢層の方が訪れ多くの参加者でにぎわいました。参加者は背板や仕切り板の位置を自分で決め、板に釘を打って組み立てて自分だけのオリジナルの本棚を作りました。本棚が出来上がると参加者は嬉しそうに保護者や友達に報告して盛り上がる姿が見られ、木工教室をおしてたくさんの方々に木材に触れていただき木材のぬくもりを感じていただきました。

最後に準備段階で余った端材で職員が作ったキースタンド、スパイステーブル、まな板、ベソチを景品としてじゃんけん大会を開催しました。こちらもお年寄りから園児まで多くの方々に参加していただき、歓声が上がる中、大いに盛り上がりました。今後このようなイベントに参加し、地域の方々や次世代を担う子供たちに森林の大切さや木材の利活用をアピールしていきたいと思えます。

## 岡垣町と「遊々の森」の協定締結

【福岡森林管理署】10月24日、岡垣町と福岡森林管理署は「遊々の森」の協定を締結しました。



協定を交わした宮内町長（左）と角署長

の森」の協定を締結しました。岡垣町から芦屋町までの海岸には、三里松原と称される延長12kmに及ぶ松原が広がっており、そのうち岡垣町の松原の大部分は国有林となっています。

この三里松原は、岡垣町のシンボルとされ地元ポランテアによって年2回の松葉掻きが行われるなど、国有林と一体となった積極的な保全活動に取り組まれています。

協定の対象地は、三里松原のうち岡垣町立内浦小学校近くの国有林5.11haで「内浦地区遊々の森」と命名され、今後、小学校による自然観察や森林体験、ポランテア団体による木の植栽や下草刈りなどの活動が予定されています。

# 天然力を活用した森林づくり勉強会を開催

11月14・15日の2日間にわたり、天然更新に関する職員の実務力を高めることを目的に、局署の関係職員約50名出席の下、「天然力を活用した森林づくり勉強会」を開催しました。

1日目の冒頭、井口真輝計画保全部長より「なぜ今、天然力活用の取組が必要か。これまで長年人工林の森林造成に取り組んできたが、その後の社会情勢の変化などによりすべて人工林として維持することは困難になっ

てきたことがその背景。天然力を活用した森林づくりは、国有林が先導的に取り組むべき課題。本勉強会で学んだことを現場において実践に生かしていただきたい」と挨拶。

その後、鶴川信鹿児島大学准教授より「九州管内の自然の概要」と題して気候、植生、土壌と地形、シカの分布について、伊藤哲宮崎大学教授より「更新可能性判定における留意点」と題して、人工林伐採後の天然更



伊藤哲宮崎大学教授による講義の様子

新は容易ではないことや人工林内に定着した前生樹をできる限り残す事の重要性について、最後に、八木貴信森林総合研究所九州支所主任研究員から、「目標林型の考え方」と題して目標林型の定義・考え方、目標林型と天然力活用について講義を受けました。



現地勉強会の様子

2日目は、熊本森林管理署管内の宇城市(雁回山(がんかいざん))において、「天然力を活用した施業実行マニュアル」を活用した現地勉強会を実施しました。現地では職員を4班に分け、ヒノキ人工林40年生と45年生の2林小班内において、各班毎に林内下層植生・広葉樹母樹の有無・シカ害の有無などを野帳に記入し、更新の可能性について判定を行いました。午後からは、各班毎に調査判定を発表した後、有識者を含めた意見交換を行い全日程を終了しました。

天然力を活用した森林づくりを進めるため、今後このような勉強会等を実施していくこととしていきます。

(担正計画課)

## 猪八重溪谷で森林環境教育を実施

【宮崎南部森林管理署】11月8日、日南市立瀨上小学校の5年生12名を対象に「森林セラピー基地」及び「日本の貴重なコケの森」等に認定されている猪八重溪谷において、森林環境教育を行いました。

この森林環境教育は、猪八重溪谷の自然散策を通じて、森林の大切さやそれを守る人々の活動の素晴らしさを実感し郷土の理解を深めるとともに郷土への愛情を育てることを目的にしています。

当日は、郷原寛美森林技術指導官による紙芝居「森林からのおくりもの」を鑑賞したあと、NPO法人「ごんはる」の谷口由利



真剣に紙芝居を見る生徒の皆さん

子さんの案内で猪八重溪谷を約4km散策しました。猪八重溪谷では、コケの観察スポットでシラガコケやヒツジコケなどを手で触り、コケの柔らかい感触を確かめました。また、溪谷の河原では小石についている貝の化石を発見し感動の声を上げていました。

溪谷の散策を終えた生徒からは、「また家族とやってみたい」「体のリフレッシュができて楽しかった」「森を守る仕事を頑張ってください」などの言葉が聞かれ、自然への関心が高まったように感じました。

当日は、森林・林業への理解促進や担い手育成のため、今後とも森林環境教育を積極的に推進していきます。

## 遊々の森でボランティア林業を実施

【熊本森林管理署】11月16日、当署管内吉無田高原国有林において、食とみどり、水を守る熊本県民会議主催の第19回ボランティア林業が、当署職員12名を含む約80名が参加して開催されました。

食とみどり、水を守る熊本県民会議では、森林の役割や管理の大切さをアピールするとともに、水源涵養の機能向上を目的に体験林業活動を毎年行ってお



シイタケの駒打ち作業を体験

り、現地は平成27年度に当署と「未来の源・遊々の森」として協定を締結しています。

当日は秋晴れの中、開会式では主催者挨拶に続いて川畑充郎署長から「ボランティア林業を長年にわたり続けていることに敬意を表するとともに、今後とも継続した活動を期待します」との来賓挨拶を行った後、当署南阿蘇森林事務所の杉中邦浩首席森林官より現地の概要説明、歌野邦美総括治山技術官から作業上の注意事項等について指導しました。

参加者は、当署職員の指導のもと体験林業では間伐したクヌギを玉切りしてシイタケの駒打ち作業に、森林教室では松ぼ

くりを利用したクリスマスツリーの作成と火おこし体験にチャレンジするとともに、昼食には絶品の猪汁とおにぎりを食べてまさしく自然の中で食とみどりを満喫する一日となりました。

当署としては、引き続き関係機関等と連携して森林ボランティア活動及び森林環境教育活動を積極的に推進していく考えです。

## 地元自治会等と不法投棄物を回収

【熊本南部森林管理署】11月5日、人吉市大畑町の国道221号沿線及び大畑国有林内においてクリーン活動を行いました。

今年度も、地元自治会並びに人吉市役所、請負事業体、熊本南部林業土木協議会の皆様のご協力をいただき、当署職員と合



挨拶される自治会長

わけて総勢52名でゴミの回収を行いました。

当日は天候にも恵まれ、回収されたゴミの量は可燃ゴミ140キ、不燃ゴミ310キの計450キで昨年と比較して全体の量としては若干減ってはいるものの不燃ゴミについては昨年の約2倍と増えており大半が空き缶や電化製品などのゴミでした。国道沿線の山林では人目に付きにくいこともあることから、例年回収作業を実施しているにもかかわらず不法投棄が後を絶たない状況です。

今後地元自治会等と連携を図りながら、不法投棄防止の啓発と併せてこうした活動を継続して取り組んでいくこととしています。



収集したゴミの選別作業の様子

## 金峰山周辺のクリーン活動を実施

【熊本森林管理署】11月27日、当署管内金峰山及び小萩国有林において、くまもと自然休養林金峰山地区保護管理協議会、NPO法人災害通信ネットワーク、一般社団法人熊本林業土木協会及び九州国有林林業生産協会の関係事業体の協力を得て、当署職員を合わせた総勢約50人でクリーン活動を実施し、不法投棄されたゴミを回収しました。

作業開始に当たり、川畑充郎署長より「金峰山周辺は多くの観光客が訪れる重要な観光拠点ですので、お越しになった方々に心地よく自然に触れてもらえるよう綺麗にしましょう」との



選別される不法投棄されたゴミの山

挨拶の後、西田卓矢事務管理官補より作業の実施要領、留意事項等について説明しました。

参加者は主要道路の3路線沿いに投棄されたゴミを回収しましたが、道路から一歩林内に入ると空き缶やペットボトルなどの一般ゴミだけでなく、テレビ、冷蔵庫などの家電ゴミやタイヤまで投棄されており、急斜面で足場の悪い中を苦労しながら全体で4トンダンブ3台分のゴミを回収することが出来ました。

当署管内においても、処理費用の負担を消費者に義務付けた平成13年の家電リサイクル法の施行以降は不法投棄が増加傾向にあります。引き続き関係機関との連携・協力を強化して国有林内のクリーン活動に努めていく考えです。



参加者全員で記念撮影

**森林のアートギャラリー表彰式を開催**  
**27作品の中から最優秀賞1点・優秀賞5点を選出**

11月24日、九州森林管理局で、「第15回森林（もり）のアートギャラリー」の表彰式を開催。制作にあたった生徒達のほか、担当教諭・保護者など計59名が出席しました。

今年のテーマは「未来へつなぐ森（も）林（り）」。平成26年に制定した山の日の意義「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」を元に、森林を大切に

する心で描いてほしいという思いから設定。地球温暖化などの様々な環境問題に注目が集まる中、今年の本テーマを元に、熊本市内の中学生に森林の役割や重要性を絵で表現していただきました。

10校から27作品の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞5点を選考しました。

最優秀賞作品を九州森林管理局正門、優秀賞作品を東側フェンスに設置しました。



あいにくの雨で大会議室での表彰式になりました

日本森林林業振興会津々見熊本支部長より講評をいただき、その後、久保森林整備部長が表彰状の授与をしました。

これまで展示されている作品は道行く人たちの心を癒し、地域の方から好評を得ています。自然や森林について考えてもらうことを期待し、今後2年間展示します。

なお、今回の表彰作品は次のとおりです  
**（担当＝技術普及課）**

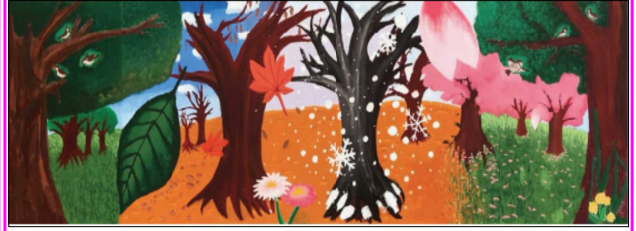
**【優 秀 賞】**



「夕日がさしこむ森林」

熊本市立 帯山中学校 美術部 2年生

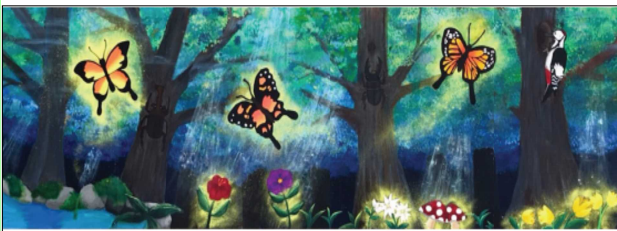
**【最 優 秀 賞】**



「四季」

熊本市立 西山中学校 美術同好会 1～2年生

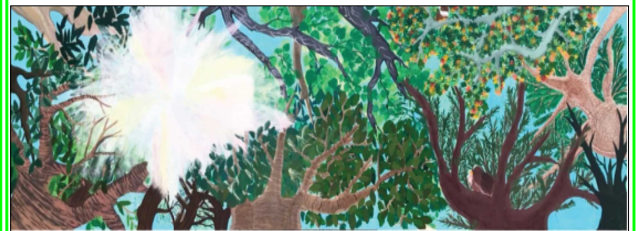
**【優 秀 賞】**



「夜の森と月の光」

熊本市立 清水中学校 美術部 1年生

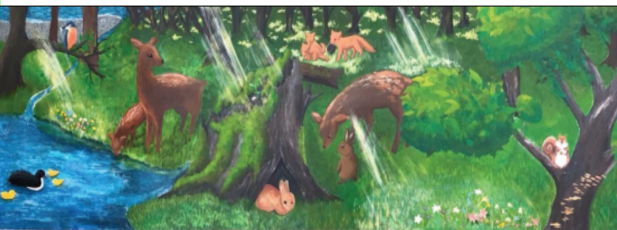
**【優 秀 賞】**



「森林の未来を託す光」

熊本市立 桜木中学校 美術部 2年生

**【優 秀 賞】**



「巡る生命」

熊本大学教育学部附属中学校 美術部 2年生

**【優 秀 賞】**



「聞こえてくる森と命の協和音」

熊本市立 二岡中学校 美術部 3年生



# 「綾プロ」照葉樹林復元 ボランティア作業を実施

11月23日、綾町の中尾（南俣）国有林において、ソーラーフロ  
ンティア株式会社社員の社員・家族  
21人のボランティアとスタッフ  
総勢40人で、照葉樹林復元ボラ  
ンティア作業としてシカネット  
設置を行いました。

当日は、川中自然公園の駐車  
場へ集合し、作業内容の説明や  
準備運動を行った後、シカネット  
トや支柱などを分担して担ぎ作  
業地へ向かいました。現地では、  
宮崎森林管理署の職員と、今回  
シカネット設置の指導をお願い



シカネットを設置する様子

した、淵上林業の北岡和義さん  
雑賀隆彰さんから、手順やボイ  
ントについて指導を受けた後、  
3班に分かれて作業を開始しま  
した。  
シカネット設置は今回初めて  
実施する作業で、スタッフを含  
めて経験者が少なく、ネット張  
りや支柱の固定に四苦八苦しま  
したが、どうにか予定の時間ま  
でに作業を終えることができ、  
最後の作業が終了した時にはボ  
ランティアやスタッフから拍手  
が起りました。

作業終了後は、設置したシカ



参加者全員で記念撮影

ネットの中で集合写真を撮った  
後、駐車場へ移動し閉会式を行  
い、宮崎森林管理署山崎泉次長  
からお礼の挨拶があり、ボラン  
ティア作業を終了しました。

ボランティア作業は、今年度  
2回目を2月に予定しており、  
今後も綾プロを広く一般の方た  
ちに普及啓発する取組として、  
継続して実施することとしてい  
ます。

（担当Ⅱ計画課）

## 林業専用道の整備が進む 現場を安全パトロール

【大分森林管理署・大分西部森  
林管理署】11月28日、熊本林業  
土木協会 大分支部主催（支部  
長 永吉陽一（小倉建設（株）  
代表取締役））により、大分  
森林管理署長発注の大越・赤木  
谷林道（大越側）新設工事の安  
全パトロールが実施され、所属  
する協会の小倉建設（株）、  
清川産業（株）、（株）菅厚組、  
九州緑化施設（株）、大政建設  
（株）、（株）梶原組、（株）

山崎産業の各社及び大分森林管  
理署、大分西部森林管理署から  
参加し、総勢28名により実施さ  
れました。

はじめに、同支部の江藤 事  
務局長（清川産業（株）代表取

締役）から「施工中の安全対  
策は、重要な取り組み課題の一  
つです。本日、ご参加いただい  
た皆さんと現地の安全対策を確  
認し、安全意識の向上につなげ  
たい」と挨拶がありました。

つづいて、両森林管理署を代  
表して坂本和隆大分森林管理署  
長から「貴協会には、九州森林  
管理局からお知らせされている  
とおり、重大災害を含む労働災  
害が多発する等非常に憂慮すべ  
き状況にあります。本日の安全  
パトロールを活かして、さらなる  
安全意識の向上につなげてい  
ただき労働安全の確保をお願い  
します」と挨拶がありました。

安全パトロールでは、山崎産  
業（株）の石田現場代理人から  
施工状況や安全確保の取り組み  
の説明を受けた後、参加者全員  
で、転落防止柵の設置状況、資



挨拶をする坂本署長



意見交換会の様子

材を吊る際に使用する玉掛ワイ  
ヤーの点検など施工全般にわた  
って点検を行いました。その後の  
意見交換では、危険予知活動を  
充実させて労働災害の未然防止  
に取り組んで行くことを確認し  
ました。

おわりに、益田健太大分西部  
森林管理署長から「伐倒作業を  
はじめ作業機械に係る災害も発  
生しています。また、大分県内  
では、労働災害が多発している  
状況です。本日の現場に限らず  
急傾斜地の箇所では、足下、周  
囲の確認を確実にお願いします。  
また、地元集落を通行する際  
には、地元優先の配慮もお願い  
します」と挨拶がありました。



佐藤安全衛生係長による講義の様子

場はあいにくの雨模様でしたが、評価すべき点等についての意見交換や質疑応答を行った後、佐藤係長から特に不安全な要素は見受けられない旨の講評と、崩壊や湧水など現地の変化をき

め細かに察知して必要な対策を講じることが重要といったアドバイスをいただき、参加者は、労働安全の確保に向けた具体的な取組を確認して現地を後にしました。



現地確認（伐根）を実施

この協議会を機に発注者、受注者の立場から請負事業者等の災害の未然防止に努めていくことを確認し、労働基準監督署へは引き続き、国有林の労働安全衛生管理について、ご指導・ご支援をお願いしました。

## 日田労基署との合同パトロールを実施

【大分西部森林管理署】11月18日、日田市上津江町の三芳森林事務所内国有林請負事業現場で、当署の治山・林道・生産事業を請け負っている事業者7社、立木販売物件を買い受けた2社から経営者等の参加を得て、大分労働局日田労働基準監督署との合同パトロールを行いました。

ことや災害事例の紹介があり、各事業場での「職場の安全対策等の総点検の実施」や「経営トップによる安全衛生に関する所信の表明」「適切な作業計画や作業手順の策定」等の取組の要請がありました。



雨模様の中、現地検討の様子

大分西部地域の林業労働安全に取り組み、当署も参加している大分西部地域林業労働安全対策連絡協議会の事務局を務める大分県西部振興局からも5名の職員の参加があり、国有林の労働安全への取組の一端を共有していただきました。

【鹿児島森林管理署】当署における請負事業者等の労働安全確保については、発注者の立場から契約時、監督時、安全パトロールなど機会ある毎に労働災害防止等についての注意喚起を行っているところです。

国有林56林班で実施している森林整備事業（保育間伐活用型）の伐倒作業状況及び先般発生した伐倒による災害について労基署とパトロール及び現地確認を実施、午後は会場を郡山町公民館へ移し協議会を行いました。



協議会の様子

## 秋の「平成新山防災視察登山」に参加

【長崎森林管理署】10月28日曜日、雲仙普賢岳の噴火活動で形成された溶岩ドーム「平成新山」（噴火で普賢岳より約124m隆起して1483m）にて九州大学地震火山研究センターと島原市主催の「平成新山防災視察登山」が行われ、関係機関等から約90名の参加があり、長崎森林管理署からは4人が参加しました。



山頂での説明状況

この防災視察登山には火口周辺に形成された溶岩ドームの現状を関係機関で共有するために毎年5月と11月に行われていきます。

参加者90名は、普段は入山が規制されている警戒区域内で溶岩が固まり割れてきた不安定な岩石を乗り越えて山頂まで登り、溶岩ドームの様子を観察しながら、九州大学地震火山研究センター長から平成新山の現在の状態について説明を受けました。同センター長からは「小規模な水蒸気爆発には注意する必要がある。大雨や大地震によるドーム崩落の可能性には引き続き警戒が必要」とのコメントがありました。

## 生産・造林の安全等の勉強会を実施

【宮崎南部森林管理署】11月18日、当署会議室において、安全等の勉強会を生産・造林の請負事業体9社、署担当者の総勢27名が参加し実施しました。

この勉強会は、九州森林管理局管内で災害が多発していること及び林業・木材製造業労働災害防止協会宮崎県支部から「林業死亡労働災害多発警報」が発令されたことにより、これ以上労働災害が発生することがない

よう今年度、九州森林管理局管内で発生した請負事業体及び立木販売における災害発生の概要、宮崎県内で発生した林業労働災害の概要等について安全講義を行いました。

また、当署で実施している発注者綱紀保持対策の取り組みについて説明を行い、請負事業体に理解と協力をお願いしました。

参加した請負事業体からは、本日の安全等の勉強会で学んだことを現場従業員まで共有しこれ以上労働災害が発生しないよう取り組んでいきたいとの声が寄せられました。

また、定期的に安全等の勉強会を開催して欲しいとの声が寄せられました。

当署では、今後とも請負事業体との安全等の勉強会を実施す



安全勉強会の様子

## 熊毛地区植樹祭を開催

ることにより、類似災害等の未然防止に努めていく考えです。

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】11月29日、屋久島町において、「森がすき ずっとずっと 守りたい」のテーマのもと、熊毛流域森林・林業活性化センター、屋久島町、鹿児島県熊毛支庁、屋久島森林管理署主催による、「第66回熊毛地区植樹祭」が関係者約150名の参加により開催され、当署から西純一郎署長外5名、屋久島森林生態系保全センターから黒木興太郎所長外1名の職員が参加しました。



挨拶される荒木町長

式典では、主催者を代表して開催地である荒木耕治屋久島町長の挨拶に続いて、森林・林業

功労者表彰、植樹祭テーマ公募入賞者、恵み豊かな森林作り部門入賞者など各種表彰が行われ、賞状と記念品が贈られました。

また、「第66回熊毛地区植樹祭スローガン」が採択され、民・国一体となった森林整備の推進、種子・屋久連携による木材利用推進、特用林産物の産地づくりの推進などを参加者全員で誓いました。

昼食後植樹会場に移動し来賓による記念植樹が行われ、一般植樹の前に奥村克生生態系管理指導官より「屋久島地杉の育苗生産取り組みの経緯」を説明、続いて志戸祐二小瀬田森林官より植樹の方法の説明を行い、その後参加者全員で地杉の植樹を行いました。

来年度の熊毛地区植樹祭は、関係市町の持回りで西之表市で開催される予定になっています。



植樹の様子

# 四国森林管理局職員が現地検討会に参加

## 「次世代造林プロジェクト」地を参考に、

【西都児湯森林管理署】 持続的な森林経営が期待される人工林にあつては、公益的機能の発揮及び資源の確実な造成を図る観点から、伐採後の再造林を確実にを行う必要があり造林コストの低減等が課題となっています。

九州森林管理局では、森林整備の低コスト化に向けた様々な取組が一望できる「低コスト造林実証試験地（次世代造林プロジェクト）」を設定しており、11月12日の第3回現地検討会の開催に合わせて、四国森林管理局

の職員10名が参加されました。

四国局では、各署に低コスト造林の試験地を設定することになっており、今回は、直接現場に携わる署の若手担当者を中心に参加されました。当署の鶴山道弘署長の前任地が四国森林管理局でもあることや、先月には当署の職員が、コウヨウザンの先進地である四万十署の現地調査等を実施しており、また、2年前にも四国局からの現地調査を受け入れるなど交流もあつたことから、前日の11日には当署独自のシカネット実証試験地「宙かせ張り（うかせばり）」での現地調査を実施しました。

四国局でも、九州局同様シカ対策が喫緊の課題となっていることなど、共通した認識を持ち大岩根強森林技術指導官から経緯等を含め通常のシカネットに比べ安価であることなどの説明を行い、意見交換を通じて、改めてシカ対策の重要性を再認識しました。

また、12日の午前中には、宮崎市田野町の長倉樹苗園において、代表取締役の長倉良守氏から「パーパーポットを使ったコンテナ苗増産への取組と植穴堀



現地検討会に参加された四国森林管理局の皆さん



### 低コスト造林実証試験地を視察

午後からは、人吉市に場所を移し低コスト造林実証試験地（次世代造林プロジェクト）の第3回現地検討会に参加しました。ここでは、森林・技術支援センターの山下義治行政専門員からわかりやすく、かつ丁寧な説明があり、今後の試験地設定に向けての大きな役割を果たすことが出来たと感じております。

最後に、四国局藤原達博森林整備課長から「九州局の各取組みを見せていただき、四国局の今後の取組みに色々なヒントを貰いました。前回、今回と各署の若手を参加させましたが、色々な刺激を受けたみたいで、今後の国有林を背負う者として益々、積極的に取り組んでくれるものと思えます。若手には常日頃より、「人的なパイプ作りの重要性」を伝えていきますが、今回の現地調査を機に九州局と四国局の連携がさらに強化され「あつて良かった国有林」と言われ、民間、他局等が四国局の取組みを視察いただけるよう取組んで参ります」とのお礼の言葉がありました。

機を使った植付作業軽減化」についての説明を受け、長倉氏が開発された植穴堀機「ほるほるくん」を実際に使用してみました。

四国では、主に種子からの実生苗が生産されており、九州の挿し木苗との違いはあるものの育苗については、同じであることから育苗段階での失敗からの成功事例や現在、長倉氏が取り組んでいる苗木の新たな栽培方法の試験研究についてイノベーション事業により取り組んでいる旨の説明などもあり、長倉氏の熱い思いを深く感じることが

## 「九州森林の日」植樹祭を開催

【鹿児島森林管理署】 11月16日、当署、鹿児島県、かごしまどりの基金の主催による、「九州森林の日」植樹祭を溝辺上床運動公園（霧島市溝辺町）隣接霧島市有林で開催しました。

また、今回参加した職員からは、2年前に参加した職員が、九州局を参考にして大苗の植栽に取り組んだ事例の報告もあつたことから、今回の現地調査が今後の四国局の取組みをさらに進めていくものと確信しました。



参加者全員で記念撮影

この植樹祭は、2008年5月に九州7県及び九州森林管理局が宣言した「九州の森林づくりに関する共同宣言」の行動指針に基づき、九州における「美しい森林（もり）づくり」を推進するために、毎年実施しており今年で12回目になります。

当日は、鹿児島県環境林務部長をはじめ、緑の少年団や鹿児島銀行などの協賛企業6社、森林ボランティア団体など約500名が参加しました。

代表者によるサクラ（ソメイヨシノ）の記念植樹後、植樹活動では、県担当者による植付方法の説明を行い、スギコンテナ苗木1000本を植栽しました。

参加者らは植栽後、苗木のプレセントや木工クラブ教室、森の運動会等を堪能し、家路に着きました。来年も県民参加の森林づくりの活動の一環として継続していきます。

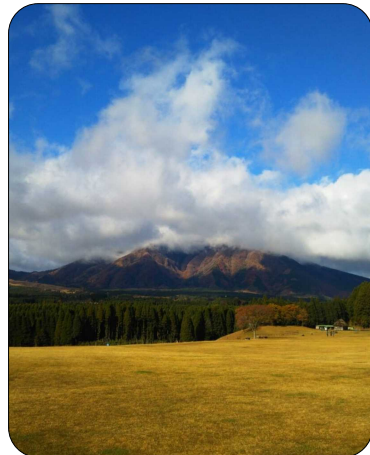
## 幼稚園にクリスマスツリーを贈呈

【大分西部森林管理署】11月29日、日田市のフレールベル三芳幼稚園にクリスマスツリー用のモミの木を贈呈しました。モミの木は、山国森林事務所部内から採取したもので、当日は7名の職員が園に届けました。



### 島崎 利行さん

もう50、60年前の事なのですが、当時私の両親は山深い山村で県有林の下請けの仕事をやっておりました。その村7世帯の村



熊本県高森町より望む根子岳

人も県有林の仕事をやっていたように思います。春は植林、夏は下草刈り、秋は枝打ち、冬は伐採と年中林業をやっていました。風呂は薪、料理もクド（かまど）で湯を沸かしたりご飯も炊いたり、こたつも炭が燃料でした。

今のように入材に使うだけではない、葉は着火材として利用して

# 「私と林業」

今、私には中学生の頃には林業が斜陽になり、仕事がなくなり引越してはなくなり、仕事を余儀なくしてはなりません。

年育てて来て、年で割ったら子供の小遣いにもならないと、愚痴をこぼしていました。こんなに安いから今は手が付けられずに荒れ果てているんだと

思っています。私は今年で定年なので、来年は日本一周放浪の旅に出掛けたいと思っています。全国の山々を見て回って来たいと思っています。

熊本市在住

いま、私は20数年前からキャンプ温泉回りにはまっています。特に好きなのは、温泉から眺める根子岳です。

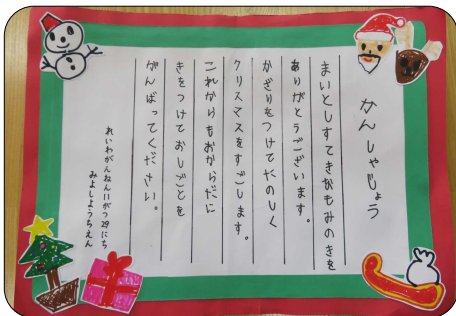
夏休みも今みたいに遊び道具も無くて、よく両親に連れられて、山仕事に行っていた記憶があります。

おかげで、ひさびさに幼少期の事を思い出さず事となりました。

私は20数年前からキャンプ温泉回りにはまっています。特に好きなのは、温泉から眺める根子岳です。



綺麗なクリスマスツリーに変身したモミの木



園児からいただいた感謝状

# 消防（地震）訓練実施

「地震・火災発生に備えた  
「シエイクアウト」・初期消火避難訓練」

11月9日から15日までの一週間、「ひとつずついいね！で確認 火の用心」の全国統一防火標語のもと、秋季全国火災予防運動が行われる中、火災・地震その他の災害への備えと意識の高揚のため、九州森林管理局においても、11月12日、局庁舎において消防訓練及び地震に備えたシエイクアウト訓練を行いました。



消火器を使って初期消火の訓練を体験

消防訓練は、例年ご協力を頂いている熊本市西消防署池田庁舎の方のご指導のもと、火災発生時の通報、初期消火や避難誘導などを、全職員が参加し実施しました。

また、避難終了後は、駐車場において消火器を使った初期消火の訓練も体験しました。

訓練後、消防署から、火災の時は、火災発生を大声で知らせること。日頃からどのような行動を取るべきか考えておくこと。また、訓練時の消火器及び消火栓の操作等において、自動火災報知器受信機で出火場所の確認ができたらず早く館内放送で知らせること、初期消火を消火栓で行う際は、折り重なったままでは、うまく放水できない場合があるので、ホースの長さに注意することなどを、ご指導いただきました。

最後に自衛消防本部長の秋岡陽一郎総務企画部長から、「訓練等を通じ、日頃から防災意識を高め、火災や災害時等の迅速な行動、冷静な対応につなげてほしい」との挨拶があり、消防（地震）訓練を終了しました。日頃から備えることの大切さを再確認した一日となりました。

（担当：経理課）

# 吾田中1年生が 餌肥杉を学ぶ

【宮崎南部森林管理署】11月28日、日南市立吾田中学校の1年生5名が当署を訪れ、餌肥杉について学習しました。この訪問は、社会的学習活動の一環で餌肥地域を生徒が回り学習するもので吾田中学校から当署が依頼を受けて実施しました。

当日は、野邊忠司次長が餌肥杉の特徴、餌肥林業を代表する弁甲材生産の歴史で林業遺産に



餌肥林業について学ぶ吾田中の生徒

認定・登録されている「三ツ岩オビシギ遺伝資源希少個体群保護林」及び近年、話題になっている「林分密度試験林（通称：木のミステリーサークル）」等を紹介しました。

生徒達は、このような貴重な資源が地元にあることを驚いていました。後日、家族で訪問したいとの声が上がっていました。

当署としては、地域の人達に森林・林業へご理解・ご協力をいただくため、今後ともこのような活動へ積極的に協力していきたいと考えています。

# 請負事業体への 安全研修会を開催

【鹿児島森林管理署】当署では、九州局管内及び当署における請負事業での労働災害が多発傾向であることを踏まえ、令和元年11月19日に始良地区素材生産事業協同組合の各事業体の代表者と従業員約50名に参加いただき労働災害防止のための研修会を開催しました。

当日は、林災防鹿児島支部・林材業安全技能師範の上村様に講師として来ていただき伐倒作業等における労働災害の現状、チェーンソー作業での心構え、労働安全衛生規則改正の内容等について説明を受けました。

また、署の担当者より林野庁、



安全研修会の様子

九州局における請負事業体の災害事例等による労働災害の現状、リスクアセスメント、請負契約時における注意事項等についての安全指導を実施しました。

請負事業体に対しては発注者の立場から契約時、監督時、安全パトロール時など機会ある毎に労働災害防止等についての注意喚起を行っています。当署では、安全指導の強化に取り組んでいくこと、また、受注者の各会社においては、今後、災害ゼロを目指していくことを確認する機会となりました。

# 2019年を振り返って いろいろな出来事がありました

九州森林管理局では、九州地域における林業の成長産業化の実現に向け様々な取り組みを行っています。ここでは、2019年の出来事をこれまでの「広報九州」で振り返ってみました。

## 各署・都城支署でシカ被害対策協定を締結

今年も各署等において「シカ被害対策協定」が締結されました。



あさぎり町と熊本南部森林管理



朝倉市と福岡森林管理署



日向市と宮崎北部森林管理署



串間市と宮崎南部森林管理署



日南市と宮崎南部森林管理署



高原町と宮崎森林管理署都城支署

## 九州森林管理局重点取組事項の記者発表を行う

（平成31年3月号・令和元年9・11月号に掲載）  
4月18日、「公益重視の管理経営と林業の成長産業化の実現に向けて」と題し、平成31年度の重点取組事項について記者発表を行いました。

## 次世代造林プロジェクト経過報告会を開催

（令和元年5月号に掲載）



記者発表を行う局幹部

九州森林管理局では、熊本南部森林管理管内の西浦国有林に低コストモデル実証の技術開発試験地（次世代造林プロジェクト）を平成29年度から森林総研九州支所・林不育種センター九州育種場・宮崎大学農学部との共同研究により実施しています。  
各研究機関及び森林技術・支援センター、熊本南部森林管理署、技術普及課の担当者が一同に会し現地検討会及び成果等の報告会が開催されました。



安調印を終えた三者の方々

## 徳之島で「保護と利用に関する協定」の調印式を実施

（令和元年6月号に掲載）

3月19日、「剥岳林道及び三京林道の利用に関する協定」の締結式を実施しました。



現地検討会の様子

## 九州農政局主催のイベントに 国有林ブースを設置

7月31日・8月1日の両日、国の機関の仕事を、展示や体験メニューを通して楽しく知っていただくと共に親子のふれあいを深めてもらうことを目的に、熊本地方合同庁舎において、九州農政局主催の夏休み特別イベント「しゅとっど？国のお仕事」夏休み見学デー」が開催され、技術普及課が、国有林ブースを設け、パネル展示や木工教室を実施し大盛況でした。

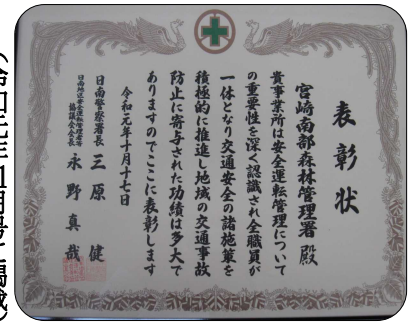


大盛況だった国有林ブース

(令和元年9月号に掲載)

## 宮崎南部森林管理署が交通安全 優良事業所として表彰される

10月17日、日南警察署長・日南地区安全運転管理者等協議会より「交通安全優良事業所」に選定され表彰状を授与しました。



(令和元年11月号に掲載)

## 授与された表彰状

## 熊本県内の小学校教諭を 対象に「森の塾」を開催

8月8日、監物台樹木園において、森林に対する関心やニーズが多様化する中、森林の役割や利用などについて教職員の方々理解と知識を深めていただき学校での森林環境教育に役立ててもらおうことを目的に「森の塾」が開催されました。



(令和元年9月号に掲載)  
担当：総務課

## ヒノキとサワラの見分け方を学習



「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。」小説家井上靖の心に響く名言である。希望を語る人材を育てることが企業・組織の発展に繋がる。人材とは人財であると心から思う▼今年も小学校と高校の教職員から教育現場に期待するものと題し講演依頼があった。森林の公益的機能中心の資料だが、生徒が興味を持つような資料を用意。先生からクイズに出せる資料との高評価、ぜひ活用を期待したい▼「第15回森林のアートギャラリー」作品を局正門と東側フェンスに設置した。熊本市内の中学校10校27の応募から選ばれた6作品である。近所の人からは、「まるで、森林の美術館」との声もある。来局の際は是非ご覧を▼「リン子」はご存じだろうか。林野庁の職員である平田美沙子氏漫画作の登場人物である。局玄関ホールで来庁者を出迎え、リーフレットにも登場し、まるで職員であるがごとく森林の魅力を伝えてくれる。森林環境教育で一番の活躍者であり、今後も一緒に頑張りたい。(ふ)

## 都会の中の緑の森 監物台樹木園の 多様な植物

ヒメユズリハはユズリハに比べて、葉はより小さく長さ7〜11cm、葉脈はやや多くしばしば網状に隆起します。葉は枝先に車輪状に集まり、互生、葉身は狭長楕円形、上面は深緑色、下面は粉白色、葉柄は帯赤色または緑色で、ユズリハのように葉が下垂することはありません。葉柄が緑色と区鑑に書いてあります。



ヒメユズリハ



アオジクユズリハ

りますが、私は大根占営林署に勤務時に、辺塚の奥で、葉柄が緑色のヒメユズリハを観察してびっくり、新種発見か、まさかと思いつきながら調べたら葉柄が緑色のヒメユズリハは、別名アオジクユズリハと判明しました。写真の様に葉柄が緑色で赤色は全然ないのです。(残念ながら樹木園にはありません)

## 145 ヒメユズリハ (ユズリハ科)

花は5〜6月、前年の葉腋に総状花序を出します。細脈について、ヒメユズリハは網状脈が見えますがユズリハは網状脈が見えません。ユズリハは日本では古くから新年の飾りとしてしめ縄や鏡餅に付けます。新葉が出てから旧葉が落ちるので、子が成長してから親が譲るのに例えてユズリハといひ、めでたいとしました。新年の飾りに使われるのは、普通ヒメユズリハで、暖かい箇所分布しており、名前はユズリハに比較して葉が小さいことによりです。

森林インストラクター  
安条 行雄